

「アートのまち」へつなぎ美術部始動

「アートのまち」づくりを進める津奈木町で、中学生を対象とした地域クラブ「つなぎ美術部」が活動を始めた。町の学芸補助を務める地域おこし協力隊の木下裕介さん(31)＝同町＝が呼びかけ、つなぎ美術館が協力する。

木下さんは崇城大(熊本市)で美術を学び、2023年8月に着任した。津奈木中美術部は10年度を最後に廃部。木下さんは「美術館と町民の関わりや教育連携が少ない」と感じていたことから、クラブの発足に動いた。

デッサンなどの絵画制作や美術鑑賞会、小国町の「おぐに美術部」との交流、津奈木町に滞在するアーティストとのワークショップなどを計画。部員の成果展も開催する考えだ。つなぎ美術館での4日の初顔合わせには、1年の篠原望那さんと荒木美里さんが参加。自己紹介をしてやりたいことや好きなことを話し、さらに仲間を集めるために校内でチラシを配布することにした。

「町のことを学びながら、いろいろな風景を積極的に絵に描いてみたい」と、篠原さんは期待に胸を膨らませた。木下さんは「子どもたちにとってアートに触れることは、創造性を身につけ、将来の選択肢を広げる機会になる」と話した。